

家計診断

学費とローンからまもなく解放 余裕ある老後には投資が必要？

相談

夫55歳、会社員。妻52歳、パート勤務。来年、一人息子が大卒を卒業する予定で、授業料や交通費など月15万円以上の出費がなると見えます。月々10万円の住宅ローンも80歳までに返済済みの見通しです。二つの重荷がなくなるまで、家計がどうなるか悩んでいます。

今まではかなり節約してきたので、妻と二人で食費や山登りを存分に楽しみたいと思っています。しかし、給付はこれから減ります。60歳の定年退職後、再雇用で65歳まで働いたとしても、その後徐々に自給の生活が苦しいのが心配です。早めに投資を始めた方がいいのでしょうか。

本を働いて損失を被るリスクもあることを忘れてはならないです。リスクを抑えるには、いろいろな局面で動く動きをする複数のファンドに投資先を分散させることが大切です。

投資の一例を紹介しましょう。先進国の格付けの高い外国債券に投資するファンドに50%、日本株ファンドと新興国株ファンドに20%ずつ、世界不動産ファンドに10%という具合です。たとえば、株の下落を債券でカバーするといった狙いがあります。さらに投資時期も分散します。

積極投資部分の目標利回りは年5〜6%を想定していますが、元

福田 啓太

大学生の子どもの教育費と住宅ローンの返済が重なる中、家計の負担は非常に大きくなります。その分、子どもが普通通り大学を卒業して就職すると(最近はこの金額が低めになりつつある)、一気に余裕が生まれます。しかし、油断は禁物。これまで何度か紹介しているキャッシュフロー・シミュレーションをしてみましょう。

相談者の場合、現在の金融資産は800万円。年収は、夫が600万円、妻が120万円です。一方、生活費は年240万円。余暇費はこれまで抑えてきたので年30万円とします。

子どもが就職すると、年間の収入は720万円、支出は588万円、当面は差し引き132万円。程度の黒字になります。かなりの余裕が生まれるように見えます。しかし、退職金1800万円を受け取り、再雇用の5年間(年収250万円)を経て、完全にリタ

積極投資、4割まで ■ 運用先・時期を分散

イアした後はどうでしょうか。収入は(年金)夫140万円、妻50万円(だけとなり、年間取支は平均200万円前後の赤字です。六厘めに金融資産を取り崩す結果、30年後の資産残高は400万円程度に減ります。子どもが就職後など思わぬ事態が発生すると、不安を感じ金額が少なくなると、そこで今後30年間、金融資産を運用した場合を試算してみます。

金融資産全体の平均利引き後利回りが1%ならば、30年後の残高は1200万円を超えます。

では、年1%の運用で十分な余裕は生まれるのでしょうか。余暇費は年30万円の設定でしたが、70歳まで100万円、71歳以降は70万円に増やすと、夫が80歳の時点で金融資産が底尽きます。

余暇費を増やすには、利回りをもう少し上げる必要があります。ただし、金融資産は生活費にも使うので、運用で大きな失敗は許さ

